

新型コロナウイルスの4回目接種が始まります

現時点で得られている科学的知見等により、以下の方を対象として4回目接種を開始いたします。
4回目接種により、高い重症化予防効果が得られます。



対象者

3回目のワクチン接種から**5か月**が経過した

①60歳以上の方

※接種の時期が近づいた方から順に接種券を発送いたしますのでお待ちください。

②18歳以上で基礎疾患を有する方 その他 重症化リスクが高いと医師が認める方

※基礎疾患で医療機関を受診している方や、事前に相談できる医療機関をお持ちの方は、その医療機関の医師にご相談ください。

※②の方で接種を希望する方は、**接種券の交付に申し込みが必要**です。

「いばらき電子申請・届出サービス(Web)」または

「常総市コールセンター(0297-44-6663)」へお申し込みください。



◆1～3回目接種がまだ終わっていない方は、早めの接種を！

3回目接種は、**2回目接種後5か月を経過すれば接種できる**ようになりました。コロナウイルスに感染した方も接種をお勧めします。まだ接種をしていない方は、早めの接種をお願いします。

◆問い合わせ = 感染症対策室 ☎44-7722



多文化共生通信

新連載！
vol.2

外国人が活躍できる まち常総



多文化共生の意義と必要性

2006年の総務省「多文化共生推進プラン」をきっかけに、「生活者」としての外国人に対する政策が進められてきました。12年の住民基本台帳制度改革では、初めて日本人と外国人の台帳が一本化され、外国人は文字どおり「住民」になり、そして19年には、外国人政策の総合調整を担う出入国在留管理庁(入管庁)が発足し、全国の自治体における総合相談窓口の設置支援や外国人在留支援センター(FRESC)の設立、「やさしい日本語」のガイドライン策定等、共生社会に向けた施策が進んでいます。

このような日常生活の様々な場面での問題を解決するためには、より総合的・体系的な取り組みが必要となります。当市では外国人総合案内窓口の一元化をはじめ、ホームページ等の多言語化を行い、外国人が地域活動に参加しやすくなることで、人と人とのネットワークが広がり、地域社会に新しい活力を生み出すと同時に、日本人にとっては、国際理解を深めるきっかけとなります。多文化共生について理解することは、日本人も外国人も、一人ひとりが気持ちよく暮らすことのできるまちを創ることに繋がります。8月号では「**常総市の取り組みについて**」を発信します。

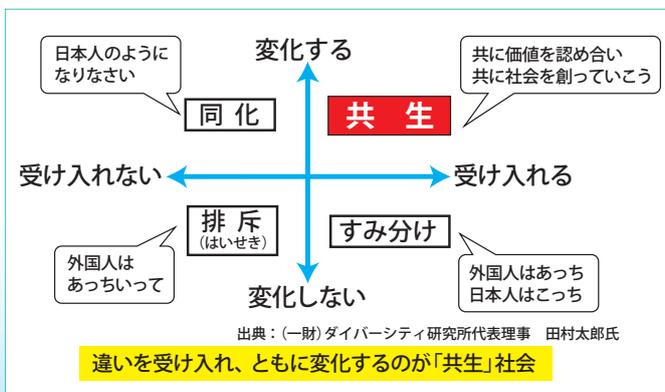
■多文化共生とは

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より)を言います。

日本人も外国人も、地域の一員として共に価値を認め合い、互いに力を合わせながら、社会を発展させていこうという考え方になります。

■多文化共生の必要性

当市には、多くの外国人が居住しており、特に外国人の集住する地域では、日本人との間で生活トラブル(ゴミや騒音等)や外国人児童生徒の就学問題等が生じておりま



◆問い合わせ = ☎市民と共に考える課(内線2110)

常住人口のうごき(令和4年5月1日現在)※()内は前月比
男30,090人(-45)/女29,879人(-26)/合計59,969人(-71)
外国籍住民5,643人(+11)/世帯数22,721世帯(+11)

